

## 第17回環境コミュニケーション大賞採点基準 採点基準の基本的考え方

1. この採点基準は、応募作品の第1次選考にのみ用いるもので、本審査委員会では、審査員の識見に基づき審査される。なお、奨励賞に関しては、一次選考を通過するほどの水準ではないが全体的に優れており、かつ特定の項目に優れた取組があったり、優れたサイトレポートであったり、作成から年数の浅いが開示が進んでいる報告書などを、ワーキンググループ委員で協議の上、決定する。
2. 採点基準の項目は、「募集のご案内」で発表されている「賞の種類」「選考基準」を、実際の環境報告書进行分析する場合の詳細項目として作成している。なお、採点基準は環境省策定の環境報告ガイドラインに基づいて作成している。
3. 応募締め切りから審査委員会、表彰式までの時間的制約の中で、できるかぎり客観的かつ公平に評価するため、すべての項目を4段階評価（「3」「2」「1」「0」）する形式とした。なお、各項目の各段階において記された評価基準は、あくまでレベル推定のためのものであり、実際の審査では環境報告ガイドラインに記載された記載事項や留意事項等も参考にしながら、段階評価を実施していく。
4. 項目の配点については、「賞の種類」「選考基準」を基礎に、内外の配点例等も参考に専門家集団の討議で決定している。なお、配点は、政策目的や開示動向などを反映することが望ましく、時の経過とともに変化し得るものである。そのため、配点に関して、必要に応じて見直していく。
5. ウェブを利用した環境報告書については、審査の効率性から両面100枚以内を原則とし、報告方針が理解できるか、他の報告媒体との相互関連を工夫しているか、などについても適宜評価していく。また、できる限り客観的評価の仕組を前提にし、最後に専門家としての総合評点を加味して評価する。
6. 本年度の改正点
  - ・特に無し。 本年度は環境報告ガイドライン 2007年版対応の採点表は用意していない。